

K君が死んだ。三十三歳。ダンスのレッスンをしている時に急に倒れ、救急車で病院に運ばれた。意識が次第に無くなり、七日目に逝(い)った。優秀なダンサーだった。さまざまなダンスの形態を統合し、新しいダンスの世界を作り上げようとしていた。彼のその仕事は終わった。しかし、彼は死ぬことによって、人生、すなわち、「人が生きる」という仕事を成し遂げた▼人が人として最後にすること、それは「死ぬ」ということ。人

はひとたび死ねば、もはや何もしない。しかし、死ぬことによって、後に多くの実を結ぶことができる。人は、そのために



生まれ、そのために死ぬ。そして真の命に生き始める。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」

(ヨハネ12・22) ▼通夜の麦の死、それが、多くの人々に希望を与えた。K君の死は、その死に立ち会った多くの人の心の中で、これから実を結ぶことだろう。永遠に生きるという実を▼神は、人が死によって別れる悲しみをよく知っておられる。それを知った上で、私たちに命を与えられた。それは私たちが愛する喜びを知るため。生前、あまり教会に来ていなかったK君。神は彼の「人生」をこのように生かされた。神の愛は計り知れない。